５ 検討に当たっての視点

中曲輪の検討にあたって認識しておくべき視点は次のとおりである。

(1) 中曲輪の優れた特質

① 世界文化遺産・姫路城と文化的価値の高い歴史的要素の存在

・ 平成 26 年度末に大天守保存修理事業が完了する世界文化遺産・姫路城が存在し、石垣や土塁など往時の城下を偲ばせる歴史的要素が多い。

・ 中曲輪を含む周辺地域は高さ規制などによって良好な景観が保全されており、随所から姫路城を望むことができる優れた眺望景観がある。

・ 姫路城は、日本の近世城郭遺構として唯一の世界遺産登録を受けている。

② 豊富な文化的観光資源を有する場所

姫路城を中心として、多くの文化施設や観光施設が徒歩圏内に存在し、加えて城周辺観光ループバスや無料レンタサイクルなども利用できるため、様々な年齢層が時間をかけて容易に周遊できる環境がある。

③ 高い集客力

・ 姫路城及び周辺の施設には国内外から年間を通じて延べ 159 万人（平成 25 年度の施設利用者）の観光客が訪れているが、有料区域施設を利用していない観光客も含めるとさらに多くの来訪者がある。

・ 中曲輪周辺で催されるまつり・イベント（お城まつり、ゆかたまつり、観桜会、観月会ほか）には年間 180 万人程度の来訪者があるなど集客力が高い。

④ 優れた公共交通機能の存在

・ 山陽新幹線・山陽本線・播但線・姫新線が停車するＪＲ姫路駅（姫路城まで約 800m）に近接している。

・ 山陽自動車道や姫路バイパスなどの自動車専用道路の乗降口から近距離である。

(2) 中曲輪の克服すべき特質

① 特別史跡区域内の歴史的イメージとの乖離

中曲輪は土地の利用用途が多様化するとともに、立地する建物も近代的な外観を有しているものも多く、来訪者が期待する城下町などの歴史的イメージとの乖離がある。

②　姫路城集中型の観光

中曲輪には多くの文化的観光資源があるものの、姫路城の存在が特に大きいため、周辺施設への回遊行動にいかにつなげていくかが課題である。また、市内にある他の観光エリアへの波及も課題の一つとなっている。

③　厳しい土地利用規制

- 中曲輪のほぼ全域が特別史跡であるため、文化財保護法に基づき現状変更等には文化庁長官の許可が必要であり、また施設の種類や区域によって建築物等の絶対高さが制限されている。
- 諸法令による様々な規制は良好な景観や貴重な遺構の保全には重要である反面、今後、新たな施設の立地検討を行う上でクリアすべき課題となる。

④　城下町特有の交通環境

姫路城周辺は細く曲がった道で一方通行が多いなど、城下町特有の交通環境から、主要な道路との交差点では日常的に渋滞が発生しており、改善が求められている。

⑤　滞在型観光の比率

姫路市観光アンケート調査結果では、来姫者の 55.4%が近畿地方からで、そのうち観光目的の 58.3%は日帰り観光で、姫路市内での消費額が 1 万円未満の方が 49.2%を占めるなど、「安・近・短」型が中心である。また、姫路城以外の観光資源の PR や食事場所の情報発信などを求める意見があり、滞在時間の延長や宿泊型観光につなげるためのさらなる魅力発信が必要である。

(3)　活かすべき外部環境の変化

①　地域ブランド志向の高まり

- 平泉や富士山、富岡製糸場が新たに世界文化遺産に登録されるなど、国内各地において世界遺産をテーマとした多様な取り組みがなされており、観光行動における地域ブランド志向が高まりつつある。
- 姫路城にゆかりのある「黒田官兵衛」が平成 26 年の大河ドラマの主人公となり、「姫路ブランド」を発信する機会となっている。
- 姫路城を含め近畿圏には世界文化遺産が複数あることから、他の世界文化遺産と連携した観光の取り組みが考えられる。

②　観光立国・地域活性化戦略の推進

・　平成 26 年 6 月 24 日に閣議決定された国の「新成長戦略」においては、「観光資源などのポテンシャルを生かし、世界の人々を地域に呼び込む社会」が掲げられ、平成 32 年の東京五輪開催という絶好の機会を捉え、訪日外国人旅行者数 2 千万人を目指す取り組みを進めるとされている。

・　旅行者のニーズが多様化し、これまで観光資源と気づかれてなかったような地域固有の資源を活用した体験・学習・交流型のツーリズムの需要が高まっている。

③　市民のアイデンティティ及び市民文化活動の高まり

・　市民アンケート結果から、「姫路城の保存・活用」が政策の現状の満足度ではトップ、政策の今後の重要性でも２位になるなど、姫路城大天守の保存修理などの取り組みが高く評価されるとともに、今後も保存・活用の政策の推進が求められており、姫路城の存在が姫路市民のアイデンティティの基本となっている。

・　幅広い世代の人々が暮らす地域の中で、主体的に文化や芸術、郷土の歴史等に関わる取り組みが見直されており、市民の文化活動への取り組みが高まっている。

④　新たな交流と賑わいを生む姫路駅周辺整備事業の進展

姫路駅周辺整備事業により、姫路駅北駅前広場の整備、駅ビルや駅ナカの商業施設の整備などが進み、広域から姫路駅周辺への集客力が高まっている。

⑤　既存ストックの有効活用

人口減少が進行し、大幅な経済成長が見込めない状況下において、全国的に公共施設の見直しの機運が高まっており、既存ストックの有効活用を含めた最適な施設配置を検討する機会となっている。

(4)　留意すべき外部環境の変化

①　人口減少と都市活力の低下

・　全国的に人口減少が進んでおり、都市の活力の低下など社会の活力維持への懸念を生じさせている。

・　全国的に中心市街地商店街の空き店舗の増加などにより街中からの人離れが進んでいる。

②　大規模災害の脅威

南海トラフや山崎断層帯を近傍に有するため、未曾有の被害をもたらす大規模災害が起こることが懸念される。

６ 現状の課題

(1) 姫路城の本質的価値を構成する諸要素の保存と活用

① 本質的価値を構成する諸要素の保存

中曲輪は、ほぼ全域が文化財保護法に基づく特別史跡の指定区域であり、石垣や堀、土塁、地下遺構等が良好に残る場所であることから、文化財の保存と適切な管理に努める必要がある。

② 世界文化遺産・姫路城の価値や魅力を学習できる施設の整備

姫路城は城内を観覧することができるものの、城の歴史的・学術的価値や往時（酒井家時代(1749～1868 年)）の暮らし等を学習できる機能が弱いため、市民や来訪者が姫路城に関する歴史や文化の更なる理解や認知度の向上を図るための環境整備が必要である。

③ 低未利用地の有効活用・整備

- 中曲輪において、低利用又は未利用のまま残されている用地については、特別史跡にふさわしい利用のあり方を検討する必要がある。
- とりわけ、県営本町住宅跡地（約 1.5ha）は将来的な活用を視野にその整理を行い、姫路警察署跡地（約 0.8ha）とともに特別史跡の指定区域にふさわしい施設整備のあり方について検討する必要がある。

(2) 文化観光の推進

① 姫路市独自の文化観光の推進

今後、少子高齢化や人口減少の進行等により都市の活力低下が懸念されることから、来訪者との交流活動を通じた都市の活性化を図ることが重要である。そのために、姫路城を中心とした周辺の歴史的な町並みや建造物等の観光への活用や、ロケ地を巡る観光ルートの開拓など、城を取り巻く周辺の魅力を一体的に活用しながら、着地型の観光につながる姫路市独自の個性と魅力ある文化観光の推進が必要である。

② 文化観光拠点の整備

姫路の歴史風土を理解してもらうためには姫路城だけでなく、手柄山や書写山、桜山等市域全体への文化観光ネットワークを構築する必要があり、文化観光を推進していくための拠点施設の整備が不可欠である。

③　中曲輪周辺地域の回遊性の向上

・　来訪者の増加や姫路城以外の観光施設への回遊性を向上させていくために、既存観光ルートの一層の周知、ストーリー性をもったルートの訴求が必要である。
・　休憩所や駐輪場の整備をはじめ、様々な人々が快適に回遊できる環境の整備が必要である。
・　来訪者の回遊性を向上させ賑わいを創出させるためには、行政による施策や施設整備だけでなく、市民や企業等の活力を生かし、官民一体のおもてなし体制の整備が必要である。

(3)　公共公益施設の効率的な運営と機能の向上

①　姫路城関連資料の体系的な集約

・　広く市民や来訪者に対し、文化財保護に関する意識を醸成し啓発するため、日本城郭研究センターが有する調査・研究機能の強化や充実に努めるとともに、市埋蔵文化財センター等に保管している姫路城関連資料を体系的に集約し、分かりやすく展示し伝えることが必要である。
・　世界遺産が持つ価値の説明や保存継承の意義を啓発するために、文化財に対する理解を深め、普及啓発を図ることができる研究成果の展示機能の拡充、及び今後、姫路城の保存修理工事や石垣修理工事により生じる部材や保存修理の記録などの貴重な資料を確実に保管し伝承する機能、さらに伝統的な文化財の保存技術の継承にかかる機能が必要である。

②　市立美術館の効率的な運営と機能の向上

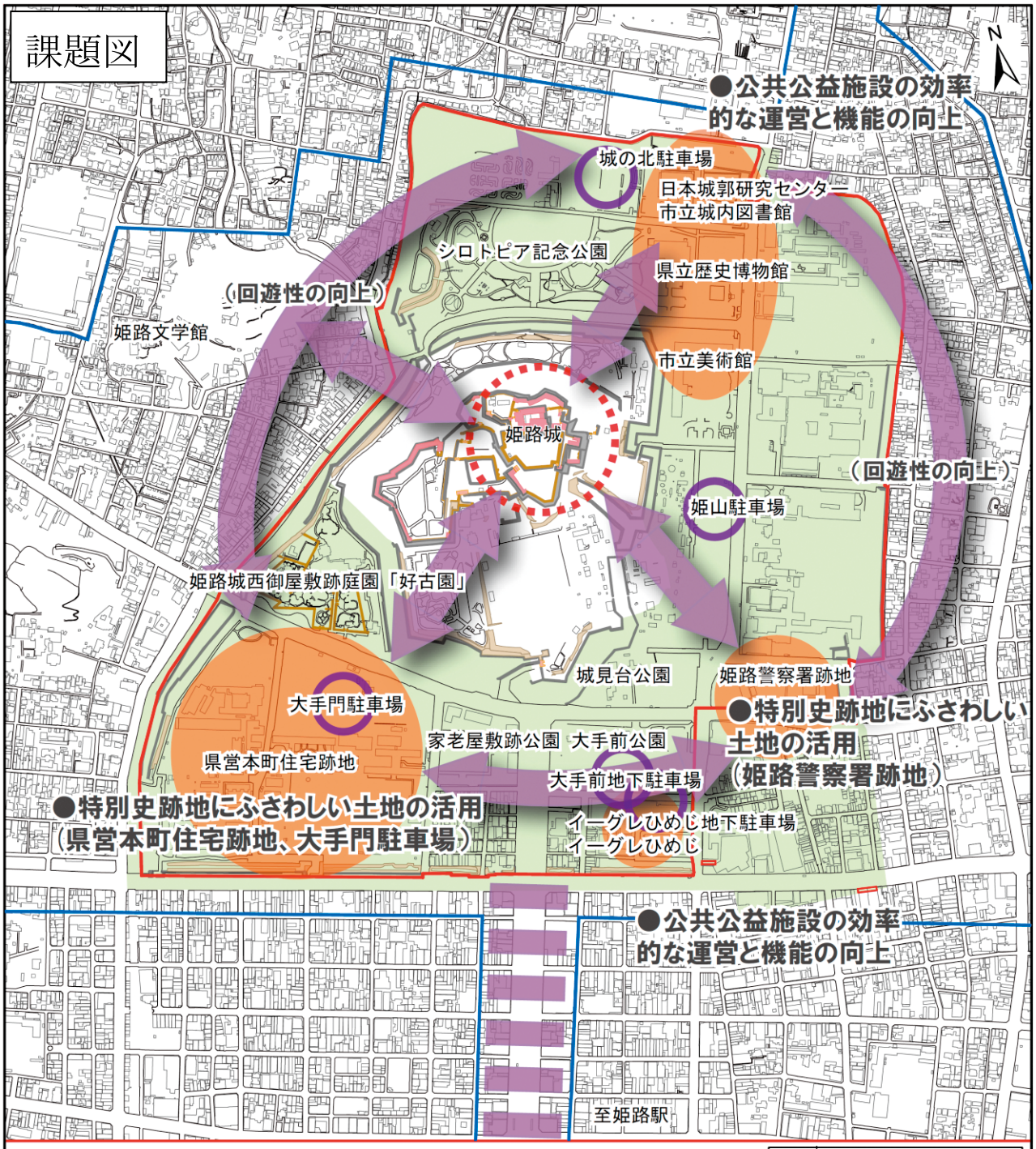
市立美術館は美術品の所蔵数に対して施設規模が手狭となっており、収蔵品を展示する十分なスペースがなく、美術館の収蔵機能と展示機能の拡充とともに、体験学習機能の充実が求められている。

③　図書館機能の向上

城内図書館については、本館としての閲覧スペースの拡大やレファレンス機能の拡充が求められているほか、「城内」の図書館として城郭関連等の専門・学術図書の更なる充実が必要である。

(4)　駐車施設の再編

・　姫路城周辺の回遊性の向上につながる観光動線や円滑な交通流動を考慮して、駐車施設の配置や再編の検討を行う必要がある。
・　特に大手門駐車場（約 2.3ha）については、内曲輪への表玄関である桜門橋や好古園、家老屋敷跡公園等に近接しているという立地条件を活かし、特別史跡にふさわしい土地利用を図る必要がある。



【全域に関わる主な課題】

●姫路城の本質的価値を構成する諸要素の保全と活用

●文化観光の推進

	主な課題地区
	回遊性の向上（イメージ）
	中曲輪
	特別史跡指定区域
	世界遺産バッファゾーン